

報道各位

新潟市報道資料

令和7年11月4日

新潟市新津地区公民館

「文芸あきは第19号(最終号)」の発刊と 表彰式の開催について

地域の皆さまの文芸作品によって彩られ、地域の文化とともに歩んできた「文芸あきは」は、このたび発刊された第19号をもって幕を閉じることになりました。前身の「文芸にいつ」創刊から半世紀の歴史となります。

つきましては、最終号の発刊と表彰式の開催について、より多くの方から文芸を身近に感じていただき、受賞者にとっても励みとなるよう、広報にご協力をお願いいたします。

<これまでの歩み>

昭和51年	旧新津市の市制施行25周年事業の一環として開催された文芸祭にあわせて「文芸にいつ」が11月5日に創刊、その後第31号まで継続
平成19年	新潟市が政令市となり「文芸あきは」として新たな一歩
令和元年	発行主体が新津文芸協会に変更
令和7年	第19号が最終号として11月1日に発刊 ※「文芸にいつ」創刊から通算で第50号

<最終号の見どころ>

■新津南高校の授業で俳句の応募作品創作を行っていただき、「青春の部」に28名の作品が寄せられました。

■小説に「恙虫病」の予防医学に尽くした地元の医師の物語が寄せられました。

<表彰式>

日時	令和7年11月16日(日) 10:30~11:30
会場	新津地域交流センター (秋葉区新津本町 1-2-39)
内容	主催者あいさつ、賞状授与、 受賞者紹介、受賞者代表あいさつ、 各部門選考委員講評

※受賞者は別紙のとおり



文芸あきは第19号(最終号):写真左側

■新津図書館、区内コミセン等で閲覧可

■新津地区公民館で購入可(1冊 1,000円)

お問い合わせ

新津文芸協会(事務局:新潟市教育委員会事務局 新津地区公民館)

担当:権平、森山 / 電話:0250-22-9666 FAX:0250-22-9616

メールアドレス:niitsu.co@city.niigata.lg.jp

文芸あきは第19号(最終号) 受賞者

部門	最優秀賞	優秀賞
随筆	^{はちじゅう て なら} 『八十の手習い』 ^{おがわ ゆうぞう} 小川 雄三 (古津)	^{なに ため しよ なら} 『何が為に書を習うか』 ^{なかむら へいさく} 中村 平作 (福島)
		^{に いもうと} 『似ていない 妹』 ^{かとう ふみこ} 加藤 文子 (新津四ツ興野)
短歌	^{かんのんめぐ} 『観音巡り』 ^{ばば あやこ} 馬場 綾子 (小須戸)	^{おも なつ ぶんげい} 『思ひ懐かし文芸あきは』 ^{あべ やえ} 阿部 八重 (車場1)
		^{そつ じゅ} 『卒寿に』 ^{かざま ほうせん} 風間 芳仙 (川口)
俳句	^{ごくしよ} 『極暑』 ^{ま の} 間野 えり (新保)	^{くり はな} 『栗の花』 ^{つちや とうこ} 土屋 瞳子 (北区つくし野1)
		^{む ね はな} 『合歓の花』 ^{ほんま てるこ} 本間 照子 (さつき野1)
俳句 (青春の部)	^{むだい} 『無題』 ^{こばやし ゆうみ} 小林 優実(新津南高等学校1年)	^{むだい} 『無題』 ^{いとう れいら} 伊藤 玲来(新津南高等学校1年)
		^{むだい} 『無題』 ^{わたなべ め い} 渡邊 芽衣(新津南高等学校1年)
川柳	^{ざつえい} 『雑詠』 ^{みなみざわ ち え} 南澤 千絵 (田家3)	^{ざつえい} 『雑詠』 ^{こばやし けい こ} 小林 恵子 (栗宮)
詩	該当者なし	該当者なし
小説	該当者なし	^{こぐち つつがむし い} 『小口の 恙 虫医』 ^{ばんざい じゅんいち} 萬歳 淳一 (中央区鑑西1)